

学校ホームページ作り

—エピソード4—

⑧年間計画・月行事予定表

教育課程で学校は動いています。その根幹となる年間計画は、欠かせない情報の一つです。しかし、学校は日々変化するところですから、常に変更点を理解・共有する必要があります。

そこで、さらに詳しい1年分の月行事予定表をホームページに載せることにしました。そして、変更したらなるべく早く更新することにしました。

⑨教育活動

学校の特色となる活動はもとより、日常の学習風景こそ保護者や地域の方々が知りたいところでしょう。開かれた学校と言しながら、一方でセキュリティのかかった校門をくぐるのは、なかなかおっくうなものです。家にいながら、時には会社でも、単身赴任先でも、学校で過ごす我が子のことを知ることができたらどんなによいでしょか。それがホームページで実現できるのです。

⑩学校評価

初めは、学校評価の公開のためにホームページを活用しようとと考えていました。しかし、研究をするにつれて、公開は当たり前になりました。どんどん比重が低くなりました。ホームページを通して、日常の教育活動をどのように理解してもらえたか学校評価で分かるようになりました。

8 学習の基地へ

—平成17年度—

【算数パソコンドリルの創作】

昔から「ドリル学習」といえば、紙と鉛筆が必要でした。プリントやノートに問題の解答を書いていくシステムは、現在も主流です。

ところが、パソコンソフトの出現により、紙がディスプレイ、鉛筆がマウスやキーボードにとってかわることができるようになりました。その結果、いろいろな利点が生まれたのです。

第1に、個に応じることが可能になったことです。児童一人につきパソコン1台という環境が整い、児童が自分の習熟度や学習スピードに合わせて学習を進めることができます。すぐ採点されるので、結果もすぐ分かり、自分のつまずきをすぐ直すことができるのです。児童は、自分で学力の向上を実感できるので、パソコンドリルが大好きです。

第2に、学年を超えた学習内容を扱えるようになったことです。従来は、少し前の学年の復習が必要な児童に対応するために教材を用意するのが大変でした。クリックだけで、他学年の学習を復習できるのです。

第3に、紙ベースが必要でなくなったことです。印刷する手間や予算を削減することができます。しかも、何度も何度も取り組むことができるのです。

しかし、ソフトの価格は高く、パソコン40台には、40セットを購入しなければならないので、何十万円もします。それに、児童一人につきパソコン1台といつてもパソコンルームだけの環境です。

そこで、インターネット上のフリーソフトに目をつけました。きっと誰かがやってくれているはずとネットサーフィンしましたが、発見することができませんでした。

それならば作るしかないと考え、実行に移しました。すると、簡単にはいかないことが分かりました。 $6 \div 3 = \square$ と□に答えを入れさせるようにするだけで大変な作業です。色を付けたり、配列を工夫したり、図を入れたりしていくと、膨大な時間がかかりました。また、どこかの問題をそのまま入れるわけにいきませんから、数値も自分で考えなければなりません。5分間用のパソコンドリルを作るのに、最低1時間かかります。パソコンソフトを作る人の苦労を身にしみて味わいました。こうして、556ドリルを完成させることができました。せっかく作ったのですから、「たくさんの子どもたちが使ってくれたら・・・」と思いました。

現任校に異動しても改善して作り続け、平成25年10月に574ドリルが完成しています。インターネット上にあることは、学校だけでなく、家庭でもできるというよさがあります。

【リンク集としてのホームページ】

学校のホームページを開けば、百科事典になる、学習ができる。そのようなことが効率よくできるようになるために、リンク集を設けました。リンク集というのは、いわば住所録のようなもので、アドレス自体には著作権はなく、法律的には無断でリンクを貼っても罪には問われませんが、マナーとしては連絡する必要があります。

事実、無断でリンクを貼ったら、先方からクレームがきました。すぐリンクをはずしました。それ以来、リンクを貼るときは、そのホームページをよく見て、リンクを貼れる条件を調べてからにしています。メールでリンク許可を申請すればよいのなら楽ですが、細々とした規定があるとうんざりしてしまいます。そのようなところは、一切リンクしない方が無難です。（続く）